

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492800188	事業の開始年月日	平成26年8月1日	
		指定年月日	平成26年8月1日	
法人名	日本アメニティーライフ協会			
事業所名	グループホーム花物語なでしこ			
所在地	( 257-0015 )			
	神奈川県秦野市平沢338-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成30年11月7日	評価結果 市町村受理日	平成31年3月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花物語なでしこは、生活リハビリを重視しています。入居者様のADL・QOLが比較的高い為、日頃から散歩や周辺の公園へドライブに出たり、庭のプランターで花や野菜作りは継続しており、「プランターじゃ小さいから。」と入居者様の声から、地面を掘って育てる場所を増やしたりアドバイスを受けながらも土の手入れから一緒に行い、洗濯物や調理の準備も自ら進んで行う事もあり皆さんで協力して生活をしています。職員がほとんど地元の方々なので地域の行事などの情報が入り参加したりと地元の入居者様の回想法にも繋がっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年12月10日	評価機関 評価決定日	平成31年3月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線洪沢駅から246号線を約10分、さらに住宅地に入り、5分ほどの一番奥にある2階建て寮風建物の1ユニットのグループホームです。運営法人は、神奈川県を中心に、グループとして150ヶ所余の介護事業所を運営しています。

<優れている事項>

新しく管理者が7月に着任しています。本部の担当施設長が応援し、新たな人材を揃えて定着化に取り組んでいます。事業所は、社宅を改装して利用しており、廊下とリビングには段差があり、また、2階の居室とは階段を使い1日に数回上り下りしています。このため生活リハビリに力を入れています。男性入居者が食器洗いを3名で共同して行ったり、日常的に散歩に行ったり、日用品の買い物に出かけるようにしています。職員は入居者に対して常に年長者として尊敬して対応しています。本人の気持ちを大切に、さりげない声かけや対応に配慮し、職員もいつも明るくふるまい、楽しみながら支援しています。

<工夫点>

入居者、一人ひとりの現在持っている能力の維持向上を目指し、日々の生活の中で生活リハビリに力を入れています。それぞれが野菜づくり、裁縫、食器洗い、配膳などの役割を持って元気に過ごしています。毎月テーマを決めて研修を行っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム花物語なでしこ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念は、全施設長の理念をそのまま引継ぎ玄関・事務所職員ロッカーに提示しているが、理念を理解し実践にはまだ取り組みが行われていない。	開所時に作った理念を現在も引き継いでいます。利用者の「笑顔がいっぱい」から始まり、地域とのつながりなどが続き、最後に「スタッフが楽しい」に終わる、分かりやすい理念です。現管理者は定着化に取り組んでいます。	管理者が交代したばかりなので、思いと方向を理念にまとめ直し、新しい態勢に移ることも期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご利用者様との散歩で近隣の方々から声を掛けて下さる事も多く、地元の職員を通じて地域の方々との交流することが多くなっている。	自治会に加入し、納涼祭や地域の清掃などに参加しています。散歩では挨拶をしたり、会話を楽しんだりしています。職員は地元出身が多く、そのつながりで行事などの情報が入り、利用者と一緒に外へ出かけて楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	特に運営推進会議にて、地域住民の方や自治会長・民生委員様の参加で様々な質問やご意見を頂くことがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて挙げられたご意見・感想を元に新たな発見や情報を頂いている。すぐに取り込める事に関しては職員と共有しサービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回運営推進会議が開かれ、渋沢市職員、後見人や看護職員も出席しています。インフルエンザ、転倒のリスク、熱中症対策、入院後の処置、夜間想定での防災訓練など議題は豊富です。参加者の事業所内見学も行って意見も交わしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議にて毎回市役所から2課（高齢介護課、生活福祉課）の方が出席して下さり、相談など意見交換をしている。	運営推進会議に市職員が参加し、身近な存在です。グループホーム連絡会にも参加しています。市主催の健康福祉フェスティバルに出展し、縫物などの作品を展示しています。生活保護受給者もいるので、後見人との関係を相談しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今年4月から身体拘束適正委員会を置き3ヶ月に1回会議の時に開催し、身体拘束に繋がっているケアはないかを話し合い意見の共有をし、身体拘束廃止に取り組んでいる。	身体的拘束などの適正化のための指針により、事業所内委員会を30年4月に制定し、3ヶ月に1回開催しています。現状把握と改善点が話し合わせ共有しています。門と玄関は施錠していますが、玄関の鍵を開けて庭に出られるようになっています。書類は事務室内にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルに沿って定期的に研修を行っている。不審な痣や傷を発見した場合は、すぐに管理者に報告をし、申し送り等で原因を追究し再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在4名の入居者様が後見人制度を利用されており、施設入所後に制度を利用された方が多く、利用開始までのプロセスは常に職員と共有し、理解を進められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約文を確認しながら納得して頂き、解約や料金の改定なども必ず文書を取り交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御利用者とは、常に食事イベントのメニューやレクリエーションの内容について相談し、意見・意向を聞いて取り入れている。御家族からも、運営推進会議や来設等の際に説明し、ご意見を頂き、ケアに生かせるように取り組んでいる。	家族には、面会やイベントでの来訪時に様子を伝えたり、意見を聞いています。医療関係のことは看護師が説明しています。買い物などの様子を電話や手紙で伝えています。居間兼食堂はサロンと呼び、オープンに話しあう場としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に2度開催される会議において、職員からの改善提案や希望は積極的に聞き取り、相談など話し合いの場を設け取り入れるように努めている。また普段からも、職員からの相談・意見は優先的に時間を作って対応するようにしている。	月2回のケース会議と毎月の全体会議で意見を出し合い、ごみの分別で大きな袋を準備するなど職員の意見を取り入れています。毎月テーマを決めて研修を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者により労働基準法に即した労働環境が整えられ、処遇面も働きやすい環境づくりが取り組まれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では多くの研修や支援制度が用意されておりスキルアップの機会は多い。また、管理者の悩みや相談についても、すぐに上司に連絡を取りやすい体制が組まれており、常に相談・助言を受けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	秦野市介護支援専門員協会や秦野市主催のグループホームフェスティバルへの参加で、同業の方々との情報交換の機会は多くある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には必ず本人と面接をし、本人の意向や生活歴、習慣や趣味などの情報を元に、環境の変化から来る混乱を軽減できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居の問い合わせ、見学・申し込みの段階で、入居を考えた経緯、本人の状況、入居した際の心配事などを伺い、事業所の理念や具体的な対応などを伝え、安心・信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族や担当ケアマネージャー等からの現在の心身の状況・情報を集め、それを元に本人にとって必要なサービスを選択出来る様に提案や助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「共に生活をする」関係作りは、日常生活の中で管理者・職員共に心がけている。毎日の日課や作業の中で、職員が入居者と相談し、時に協力し、時に指導されながら毎日を過ごしていく関係を、引き続き作っていけるよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の心身の状態変化や通院報告、暮らしの相談などを定期的にご家族にお伝えし、本人にとって最良のケアを、家族と共に話し合い実践している。また、面会時間は時間外でも対応可能であることもご家族にお伝えし施設に行きやすい環境を作る事も努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外のご友人からの面会は、基本的に事前に名前と関係を伺い、本人・家族に了解を頂いてからご案内をしている。また、ご入居者と縁が深い場所などへは、希望を聞いて定期的に車でドライブに出掛けるようにしている。	家族や友人とはサロンや自室で歓談しています。利用者や職員は地元出身者が多く、地域の話で盛り上がる時もあります。訪問理容師も楽しみの一つです。音楽療法を月2回行い、歌を通して回想しています。ひな祭りなど季節を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の作業や家事、レクリエーションやお茶の時間等を通して、入居者間の交流が広がるよう配慮している。コミュニケーションが困難な方も数名居られるが、出来る限り職員が仲介し、孤独を生まないよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられて退去された方が1名居られたが、葬儀には職員ほぼ全員で出席し、納骨までお手伝いさせて頂いた。他施設へ移られた方も1名居られたが、その方については遠隔地なこともあり、ほとんどその後の連絡は取っていない。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時だけでなく、本人とご家族からは随時、生活の意向を伺っている。また会議等で、職員間の気付きや体験を共有し話し合い、言葉の裏に隠れている希望や意向も出来る限り読み取れるよう努めている。	入居前に自宅や入院先での面接、また事業所見学時に思いや経歴などを聞き、本人像をまとめています。入居後は日々の生活の中、毎月のケース会議で一人ひとりの様子を分析し共有しています。言葉の出ない利用者は仕草や表情で確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス開始時にケアマネージャーや家族から、生活歴や家族構成等をアセスメント用紙に記入して頂き、その人の歴史や文化、入居前の生活と入居に至るまでを職員が把握できるようにしている。また、入居後もそれをケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定時のバイタル測定、食事量、排便状況などの記録や対応する職員間での情報共有や申し送りを通じ、把握に努めている。これからも手伝いや作業の具合は常に観察し、トラブルや負担の無いよう会議で話し合い調整していく必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護サービス計画書にはまず第一に本人の意向を反映している。その植えに家族の意向や主治医・看護師の意見も加え、その方に必要なサービスを話し合い、介護支援専門員が計画書を作成している。月に1度のケース会議を開催し、次の計画に反映している。	本人・家族の意向をベースに支援の方針を立て、会話、外出、家事手伝い、健康のテーマでサービス内容を決めています。日々の引き継ぎ、毎月のケース会議、3ヶ月ごとにモニタリングをし、介護計画書を作成しています。日々の生活の実施状況も参考にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は常に情報が途切れる事の無いようにしている。特に内服薬の変更、受診の記録については、詳細を記録に残し、職員全員で共有するように取り組み始めた。状況に応じては個別に作成した書式で記録を残す事もあるが、改善の余地はある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	事業所内のサービスだけに囚われず、例えば散髪にしても希望があれば家族と相談し随時外へ出掛け、お店を利用出来るよう心掛けている。また音楽療法など、これまでに無かったサービスを継続し、取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域でのイベント参加や自治会行事の参加、近所への散歩や買い物にも積極的に出掛け、地域住民として活動が出来るよう取り組んでいるが、まだまだ地域資源の活用という意味では足りない部分がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療提携している内科医が毎週木曜に往診に來られ、親切丁寧に相談に乗ってくれている。他科への紹介、夜間の相談対応、緊急時など、利用者・職員共に信頼し、安心して相談できる状況になっている。	協力医療機関の内科の医師が毎週往診しています。入居前のかかりつけ医への受診は希望があれば対応しています。家族と連絡を密にし、医師の指示や日常の様子を共有しています。歯科医師とも連携し、利用者の健康管理を行っています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回の看護師による訪問の際は、心身の変化や受診経過、通院するほどでもない悩みや往診の記録等を管理者・職員・利用者から報告している。また薬剤師やかかりつけ主治医とのカンファレンス、連携も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、管理者が様子や経過などの情報を入院先の看護師、医師などから得ている。また医師やソーシャルワーカー、家族と話し合いを持ち、本人にとって最良な方向を決めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化の指針を作成し、契約時に説明・同意を頂いている。開設から現在に至るまで施設としての看取りの事例は無いが、経験豊富な職員も多いため、定期的に研修等を通して準備を進めて行く必要がある。	「看取り介護に関する指針」があります。契約時に、重度化した場合、事業所としてできることを説明し、本人や家族と十分話し合うようにしています。今までに看取り介護の事例はありませんが、職員は日頃から話し合い、看取りについて学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを用意して掲示しており、それに沿った研修を行うと共に、場合によっては予め主治医から指示を頂き共有する事もある。事故だけでなく、ノロウイルス等に対する突発的な対応についてはまだまだ研修や事例検討などが必要で看護師による研修を行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の総合訓練に加え、部分訓練も年4回程行っている。毎朝の外での体操が習慣付いている為、訓練時にも出入りに関しては大きな混乱は無い。運営推進会議においても近隣住民・自治会長らと災害時の対策は話し合っているが、継続した協力関係が必須。	災害対策の「マニュアル」があり、年2回の総合的な訓練を計画的に実施しています。その他、テーマを決めて部分訓練も年4回行っています。運営推進会議を通じ地域からの協力も得られるようになってきました。約1週間分の備蓄品を整備しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	何気ない日常会話や職員間の情報伝達の仕方など、毎月2回の会議の中で定期的に取り上げ、人格の尊重に向けて配慮している。また女性の洗濯物は見えない場所で干し、乾かす等の細かい配慮にも取り組み始めた。	職員は入居者に対して常に年長者として敬い、本人の気持ちを大切に、さりげない声かけや対応に配慮しています。管理者自ら現場に入り、その人の思いや行動を把握し、その実現に事業所全体で取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	行事は入居者様の希望から行う事が多く、メニュー選び、外での野菜作りや個人の買い物同行の際など、出来る限り一人ひとりの意向、決定を大事にし、また選択し易くなるような配慮を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設内での最低限のルール、決まった1日の流れ以外は、個人の過ごし方を尊重し一人ひとりにお任せしている。イベントやレクリエーションにおいても強制はせず、自由に参加・不参加を選べるよう配慮を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	男性であれば髭、女性であれば髪型、目脂や口周り等、個人の好みは尊重しつつ、さり気無い配慮を目指している。外へ出掛ける際には服装かどうかを本人に確認し、自ら衣類を選んでもらい身だしなみ・おしゃれに対して興味がなくなるような支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	女性陣が野菜を切って準備し、男性陣がお茶を入れて配膳するという流れがあり、また片付けも男3名が話し合いローテーションで片付け・作業をしている。外食や食事イベントも多く、ほとんどの場合、職員と入居者が一体となって企画や準備から行っている。	日常の献立は決まっていますが、季節の行事や誕生会などでは、利用者の希望により随時買い物に行き献立を変更しています。調理が好きな人にはできるだけ調理に参加してもらい、男性にも配膳、後片付けなど出来ることはやってもらっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量と水分量は常に記録を残し、個別での対応や必要量を話し合い、血圧や排便状況とも照らし合わせ、看護師や医師に相談を行っている。食事形態は個々の嚥下や口腔状態によって、キザミ・トロミ食に随時対応出来るようご家族に状況や話しをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食時の口腔ケアは必ず行っており、毎週月曜日には訪問歯科が来られ随時口腔内の相談を行い。適切なケアを行えるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツの使用は最低限になるよう職員間で常に検討し、また日中夜間問わずトイレでの排泄を目指している。過去に、常に紙オムツと尿取りパッドを使用していた方がいたが、現在では日中は布パンツ、夜間は尿取りパッドのみと、改善した事例がある。	排泄パターンを把握し、利用者本人の様子をしっかりと観察することにより、トイレでの排泄が出来るように支援しています。入居時に、失禁が多く常に紙おむつやパッドを使用していた利用者がトイレで排泄できるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	管理表を作成し、排便状況は常に記録・検討している。毎朝の体操や散歩の声かけ、つばを刺激する手の体操、また食事時に乳製品やホットミルクを追加したりと、主治医や看護師・薬剤師とも相談し、薬に頼らない予防・解消に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は全体を3日に分けて曜日固定で対応をしているが、本人の予定や希望、都合によっては日や時間を変えたりと適時対応している。また必要があれば、個別に清拭・足浴等も行っている。	入浴の曜日は固定していますが、一人ひとりの生活習慣を尊重し、できるだけ希望の時間に入ってもらうようにしています。ゆず湯や菖蒲湯、時には入浴剤で温泉気分を味わい、入浴を楽しんでもらえるように努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中に適度な活動を促し、夜間の安眠に繋がるよう努めている。トイレ誘導者に関しては、会議で夜間の声かけ頻度や睡眠状態を話し合い、常に検討している。必要があれば通院時に主治医に報告・相談し、服薬の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	通院での服薬調整等の際は、薬の効果や目的、用量などを職員間に共有し、説明できるようにしている。主治医の指示の元、個別の記録付けも行い、場合によっては看護師や薬剤師からも助言を頂く様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	全ての家事・作業を職員と利用者とで行い、また個々の生活歴や職歴に応じて野菜や花の手入れ、日曜大工など指導を頂いている。喫煙者も、主治医の指導のもと出来る限り自由に楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	屋外への散歩は天候によって随時行っている。個人のお買い物なども調整して随時行っている。通院の際にも、希望を聞いてドライブや馴染みの場所へ出掛ける事もある。全体での外出イベントは、ADLの差が大きくなってきたため、現在検討・調整をしている。	日常的に、近隣の公園などに散歩に行ったり日用品の買い物に出かけています。また、花見や地域の夏祭りなどの季節ごとの外出や、買い物、通院、などの外出をしています。希望があれば足を延ばし馴染みの場所へドライブすることもあり、大きな楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の自己管理は基本的に行っていないが、本人の希望・能力に応じてはご家族や代理人とよく話し合い、小額を持って頂くようにしている。金銭によるトラブルなどは、引き続き職員間で情報共有し防止に努める必要がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は、希望時に全て取り次いでいる。また手紙については必要に応じて代筆・代読も行っている。関係が難しい家族・知人との連絡などは、管理者が間に入ってトラブルの無いよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所内は整理整頓を心がけ、また各所に花や季節の装飾品、入居者が作成した手芸品、行事の写真を印刷し貼り付けを一緒に行ったり、有線から流れる昭和の名曲や演歌等も、雰囲気作りに一役買っている。	サロンと呼んでいる共有スペースは明るく清潔で、大きなテレビを置き、気の合う利用者同士が思い思いに過ごしています。季節の草花や野菜を植えた庭へは自由に出入りが出来ます。廊下などに季節の小物や利用者の手作りの作品、行事の写真などを飾り、居心地のよい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂での席は、利用者の相性や性格等も考慮し、必要に応じて適時変更している。庭にベンチを設置したり、2階廊下の有線スピーカー下に椅子を置いたり、のんびりと過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家族との相談の上、利用者の希望する家具や思い出の品を配置している。清掃は順番に、職員と利用者と一緒にやって行く。事故の原因となるものや動線に関しても常に話し合い、改善に取り組んでいる。	居室は、収納スペースも広く安全性に配慮しながら自由に部屋のレイアウトをしています。馴染みのタンスや椅子、炬燵などを置き、思い出の写真を飾るなど、その人らしい生活ができるようにしています。居室の掃除は職員と一緒にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物の構造上、玄関や各居室、トイレ、廊下等各所に段差があり、また2階への手段が階段しか無い等、常に転倒などの危険性がある。しかしそれを当たり前とし生活する生活リハビリによって、ADLの維持・向上に繋がっている面もある。		

平成30年度

## 目標達成計画

事業所名 花物語なでしこ

作成日： 平成 31年 3月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開所時に作った理念を現在も引き継いでいるが、理念を理解し実践にはまだ取り組みが行われていない状況。	全職員になでしこへの思いや気持ちを挙げてもらい、新しい理念を掲げると共に、理念を理解し実践に繋げていけるようにする。	<ul style="list-style-type: none"><li>・全職員に求めている理念を収集し作成。会議の時に理念の共有をする。</li><li>・理念を職員の目に付く場所に提示。</li><li>・新職員には入社時に、なでしこの理念を説明し同じ目標に向かって一緒に取り組めるにする。</li></ul>	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月